



NO. 4

甲賀市 発達支援課
Tel : 0748-69-2178

長かった梅雨も明け、いよいよ8月です。新型コロナに加え熱中症も心配な時期ですが、体調に気を付けながら楽しくリフレッシュできるとよいですね。さて、今回ののびのび通信では前回に引き続き、心理士と作業療法士の視点から『子どもの気になる行動への対応』『幼児期に大切な運動遊び』という二つのテーマをお伝えします。

前回お伝えしたように、子どもが気になる行動を起こす時、その目的は大きく分けて次の4つが考えられます。

- | | | | |
|-------------------|--------------------------------------|---------------------------|-----------------|
| ①『要求』
(〇〇がほしい) | ②『拒否・逃避』
(〇〇をやりたくない・
〇〇から逃げたい) | ③『親や周囲の
人から注目され
たい』 | ④『感覚刺激
がほしい』 |
|-------------------|--------------------------------------|---------------------------|-----------------|

気になる行動をなんとかしていくには、この目的を見極めた効果的な対応が大切になります。

効果的な対応その1 『気になる行動には反応せず、良い行動をほめること』

効果的な対応その2 『適切な行動を教え、その行動へと導くこと』

前回と同じく、“大きな声をあげる”という行動への対応を考えてみます。

①『要求』や③『注目してほしい』という場合には、声を出している行動自体に大人が反応し、注目してしまうと、かえってその行動を強化してしまうこととなります。声を出している行動に過剰に反応するのではなく、どう伝えたらいいかを教えてあげて、子どもが伝えられた時にほめてあげましょう。適切な行動（この場合は、大きな声をあげることに代わる伝え方）に注目し、ほめることで、適切な行動が強化されていき、気になる行動は減っていくでしょう。ただ、子どもは親に反応してもらえなかったことで、物足りない思いをするかもしれません。そんな行動をしなくても親に関わってもらえると子どもが理解できるよう、普段から子どもの好きな遊びと一緒に楽しむ、子どもの気持ちに共感する、子どもががんばったことをほめてあげるといったことを大切にしてくださいね。

次に、④『感覚刺激』を求めて大きな声をあげている場合です。大きな声をあげる刺激に代わるような、子どもの好きな刺激が得られる遊びを提案してあげると、その行動に移れるかもしれません。例えば、感覚刺激を求めて周りの物を叩き続ける場合は、太鼓やタンバリンなど叩くおもちゃを用意するなど、適切な行動にかえてあげられるとよいですね。

最後に、②『拒否・逃避』についてです。やりたくないことから逃げるために大きな声をあげる、という時には特に、その後の対応だけでなく事前の工夫も大切になってきます。次回、**効果的な対応3**として、『**気になる行動が起こりにくくなる、事前の工夫**』についてお伝えします。

(引用文献)『発達障害の子どもを伸ばす魔法の言葉かけ』Shizu (著) 平岩幹男 (監修) 講談社

今月のあそび

毎月、家庭でできる遊びを紹介します。



今回のあそびアイテム
みずあそび

水遊びが気持ちよい季節です。ペットボトルやプリンカップなどを使って遊ぶのも楽しいですね。今回はペットボトル水鉄砲の作り方を紹介します。



ペットボトルのキャップに、ストローの大ききびつりの穴をあけます。ストローのまっすぐのほうを穴に差し込み、曲がる方はペットボトルに入れ、キャップをしめて完成。キリを使う時はケガをしないように気をつけてください。



そのほかにも・・・

『kodomoe コドモエ』
手作り&遊び方アイデア



『子どもの遊びポータルサイト
ミックスじゅーちゅ』
色水遊び

幼児期に大切な運動あそび パート2

前回の『ジャンプ』に引き続き、今回は、『しがみつき』を紹介します。「すぐに肘をつく」「猫背で背もたれによりかかる」「疲れやすくすぐ横になる」など、姿勢が気になる方は、姿勢が良くなる効果もありますので、ぜひ、チャレンジしてみてください。

おさるの親子になってしがみつき遊びを楽しもう

しがみつきは、重力に逆らって、自分の体を使う活動です。落ちないようにしっかりと握り続けるためには腕に、足を上げておくためには腹筋に力を入れ続けることが必要になります。更に、しがみ続けるためには、姿勢を保つための首や背中 of 筋肉も動いていきます。また、しがみつきをすることにより、今、自分の体はどうなっているのか、どう動いたらいいのかを頭の中で認識し、筋肉の動きをつなげていく運動になります。

① おさるの親子（ステップ1）



- 大人は少し前かがみになって子どものお尻を支えます。
- 子どもは大人の首に手を回し、足で大人の腰を挟み、落ちないように腕で体を引き寄せます。

② おさるの親子（ステップ2）



- 大人は支えている手を放し、子どもはしがみついて落ちないように姿勢をキープしましょう。
- 最初は子どもの体を支えたり放したりし、様子を見ながら手を放す間隔をあけてみましょう。
- 落ちてきたら子ども自身が親によじ登れるようになるといいですね。

③ おさるの親子（ステップ3）



- 大人が四つばいになり、子どもは下から潜り込んでしがみつきます
- 大人は進んだり、ゆすったりしていきます。
- 子どもの手足が大人にしっかり巻き付き、頭が下がらずに持ち上がっているといいですね。

(参考文献)『発達障害の子の脳を育てる運動遊び～柳澤運動プログラムを活用して～』 監修 柳澤 弘樹 講談社

お子さんの様子に合わせて、一緒に取り組んでみてください。